

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-2	高等学校	保健体育	保健体育	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
50・大修館	保体・305	最新高等保健体育 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

教育基本法や学校教育法改正の趣旨をふまえ、わが国および社会の形成者として、自分のみならず、社会を健康的なものに発展させていけるような資質と能力を養える教科書とする。そのために、生涯を通じて健康や安全の課題に適切に対応できるよう、思考力や判断力、実践力などの育成に寄与し、また、豊かなスポーツライフを実現するための基礎となる知識を確実に定着させることができる教科書とする。

2. 編修の基本方針

- ◎保健体育の学習を通し、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うために、記述内容の検討はもとより、コラムや学習課題を設けるなど、教科書全般にわたって配慮する。
- ◎ヘルスプロモーションの考え方を生かし、自分の健康を自分で築くとともに、個人を支える社会環境づくりについても社会の一員として考えることができるよう、教科書全般にわたって配慮する。
- ◎実生活に役立つ内容や高校生に関心の高い内容を積極的に取り上げることで、学習内容を自分に引き寄せて思考することができるよう、教科書全般にわたって配慮する。
- ◎生涯を通じて自分の健康を適切に管理し、改善していく能力が身につくよう、小学校、中学校の内容にも配慮し、系統性のある学習ができる内容とする。
- ◎自発的・自主的に学習する姿勢や自ら思考・判断・表現する能力が身につくよう、学習のねらいや課題の設置、図表の示し方などに工夫を施す。
- ◎学んだ知識を実生活で生かすことができるよう、学んだことを整理する課題や実践力の育成に結びつく課題を設ける。
- ◎運動やスポーツに必要な知識を技能と関連させながら考えることができるよう、また、学習内容が実生活における豊かなスポーツライフの形成につながるよう配慮する。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
保健編 1単元 現代社会と健康	・健康の保持増進のためには、健康に関する個人の適切な意志決定・行動選択がかかわっていることを取り上げました（第2号）。 ・健康を保持増進するための環境づくりに対して個人の関わりが重要であることを取り上げました（第3号）。 ・たばこの広告を分析して、そこに隠された意図を読み解く課題を設けました（第1号）。 ・薬物乱用への巧妙な誘いを分析したうえでの断り方を学ぶ課題を設けました（第1号）。 ・自己実現において、自分らしさを形成すること、自他の個性を尊重することを取り上げました（第2号）。 ・生命危急の際に積極的に関与することの必要性を取り上げました（第4号）。	12～13, 15ページ 14ページ 27ページ 35ページ 48ページ 56, 60～61ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
保健編 2単元 生涯を通じる健康	・異性の心と体をよく理解し、相手の気持ちを尊重することについて取り上げました（第3号）。 ・妊娠・出産において、生まれてくる子どもに対する親としての責任について取り上げました（第3号）。 ・結婚生活と家族の健康に対する責任について取り上げました（第3号）。 ・わが国や世界でおこなわれている、さまざまな保健活動や対策について取り上げました（第5号）。	66ページ 68, 70ページ 74～75ページ 86ページ
保健編 3単元 社会生活と健康	・自然環境の汚染が健康に影響を及ぼすことがあることを取り上げました（第4号）。 ・環境保全のために個人と社会が果たす役割について取り上げました（第4号）。 ・食品の安全を守るために、生産者、製造者、消費者が果たす役割について取り上げました（第3号）。 ・食品の広告やブームを分析し、より安全な食品を選ぶポイントを身に付ける課題を設けました（第1号）。 ・生活の変化とともに働き方が変化してきたこと、それにともなう健康問題も変化していることを取り上げました（第2号）。	88～91ページ 89, 93～94, 96～97ページ 100ページ 101ページ 102ページ
体育編 1単元 運動・スポーツの文化的特徴	・生活の中で身体を動かすことの重要性について取り上げました（第1号）。 ・日本生まれのスポーツがあることを取り上げました（第5号）。 ・スポーツの文化的価値について取り上げました（第1号）。 ・オリンピックが世界平和の促進に大きな役割を果たしていることを取り上げました（第5号）。 ・スポーツにかかわるさまざまな職種があることを取り上げました（第2号）。 ・アンチ・ドーピングの運動について取り上げました（第4号）。 ・スポーツ倫理について取り上げました（第3号）。 ・ドーピングについて考える課題を設けました（第3号）。	112ページ 116ページ 118ページ 120ページ 124ページ 126ページ 127ページ 128ページ
体育編 2単元 運動・スポーツの学び方	・体力トレーニングの考え方および実践方法を取り上げました（第1号）。 ・運動やスポーツによるけがの実態を取り上げ、どのように注意すべきかを紹介しました（第4号）。	138～141ページ 142～143ページ
体育編 3単元 豊かなスポーツライフの設計	・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方があることについて取り上げました（第2号）。 ・自分でスポーツライフを設計する課題を設けました（第2号）。 ・わが国でおこなわれている、さまざまなスポーツ振興について取り上げました（第5号）。 ・スポーツにおける環境破壊、環境保護について取り上げました（第4号）。	147ページ 151ページ 152～153ページ 154～155ページ

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・健康の考え方は変化してきており、さまざまな考え方があることについて取り上げました（8ページ）。
- ・交通事故を起こした場合に負うべき責任の重さについて取り上げました（53ページ）。
- ・生涯を通じて健康を保持増進するために、個人ができること、社会がすべきことを多面的かつ具体的に取り上げました。
- ・目的におうじたさまざまな体力の高め方を取り上げました（138～141ページ）。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-2	高等学校	保健体育	保健体育	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
50・大修館	保体・305	最新高等保健体育 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ◎学習者である高校生にとって特に身近な健康やスポーツに関する内容(喫煙, 飲酒, 薬物, スポーツの歴史, スポーツの技能, スポーツライフの設計, など)を扱う学習項目については, ほかの項目よりも多くのページ数を配当しました。
- ◎各学習項目の冒頭に「学習のねらい」を設けることにより, 学習者がその項目で何を学ぶのか, またそれを学ぶことによって何ができるようになるべきなのかという目標を意識した上で学習に臨めるよう工夫しました。
- ◎図表には, そこから読み取るべき要点が学習者の目にとまりやすくするため, 吹き出しをつけることにより目立たせました。
- ◎学んだことを振り返って整理したり, また学んだ知識を実生活の場面に当てはめて思考・判断することにより, 健康な生活を送るための実践力を育成する課題(「やってみよう」)を適宜設けました。
- ◎思考力・判断力を育成するため, 学習した知識を活用して解決する課題(「たばこの広告について考えてみよう」「食品やサプリメントについての見方をチェックしてみよう」「自分でスポーツライフを設計してみよう」, など)を適宜設けました。
- ◎学んだ技術, 手順などを練習によって確実に身につけさせるための実習課題(「心肺蘇生法を実習してみよう」)を設けました。
- ◎学習した内容をさらに掘り下げるために, 学習者自身に主体的に調べさせる課題(「人類と感染症の終わりなき戦いー新型インフルエンザに備えようー」「国境を越えてやってくる環境問題について考えてみよう」「世界の民族スポーツについて調べてみよう」, など)を設けました。
- ◎健康を支える社会の取り組みについて具体的な理解を促すため, 学習者にとって身近な例を示す写真を口絵にまとめて掲載しました。
- ◎学習者にとって難解な用語や, 学習者の理解を深めるためにより詳しい説明が必要だと思われる用語については, 保健編, 体育編それぞれ編末に「用語解説」を設けました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
保健編 1単元 現代社会と健康 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり	(1)現代社会と健康 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して, 健康を保持増進するためには, 個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし, 人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。 ア 健康の考え方 健康の考え方は, 国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また, 健康は, 様々な要因の影響を受けながら, 主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 健康の保持増進には, 健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかかわること。	8～15ページ	6

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
4. 生活習慣病とその予防 5. 食事と健康 6. 運動・休養と健康 7. 喫煙と健康 8. 飲酒と健康 9. 薬物乱用と健康 10. 感染症とその予防 11. 性感染症・エイズとその予防	イ 健康の保持増進と疾病の予防 健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること。 <内容の取扱い> 内容の(1)のイ及び(3)のイについては、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。 内容の(1)のイの喫煙と飲酒、薬物乱用については、疾病との関連、社会への影響などについて総合的に取り扱い、薬物については、麻薬、覚せい剤、大麻等を扱うものとする。	16～41ページ	16
12. 欲求と適応機制 13. 心身の相関とストレス 14. 心の健康のために	ウ 精神の健康 人間の欲求と適応機制には、様々な種類があること。精神と身体には、密接な関連があること。また、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。 <内容の取り扱い> 内容の(1)のウについては、脳の機能、神経系及び内分泌系の機能について必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、「体育」における体ほぐしの運動との関連を図るよう配慮するものとする。	42～49ページ	6
15. 交通事故の現状と要因 16. 交通事故を防ぐために	エ 交通安全 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわること。また、交通事故には責任や補償問題が生じること。 <内容の取り扱い> 内容の(1)のエについては、二輪車及び自動車を中心に持ち上げるものとする。また、自然災害などによる傷害の防止についても、必要に応じ関連付けて扱うよう配慮するものとする。	50～55ページ	4
17. 応急手当の意義とその基本 18. 日常的な応急手当 19. 心肺蘇生法の原理とおこない方	オ 応急手当 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。 <内容の取扱い> 内容の(1)のオについては、実習を行うものとし、呼吸器系及び循環器系の機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。また、効果的な指導を行うため、「体育」の「D水泳」などとの関連を図るよう配慮するものとする。	56～62ページ	6

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
保健編 2単元 生涯を通じる健康 1. 思春期と健康 2. 性への関心・欲求と性行動 3. 妊娠・出産と健康 4. 避妊法と人工妊娠中絶 5. 結婚生活と健康 6. 中高年期と健康	(2)生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。 ア 生涯の各段階における健康 生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりがかかわっていること。 <内容の取扱い> 内容の(2)のアについては、思春期と健康、結婚生活と健康及び加齢と健康を取り扱うものとする。また、生殖に関する機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。責任感を涵養することや異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処についても扱うよう配慮するものとする。	64～77 ページ	12
7. 医薬品とその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 保健サービスとその活用	イ 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関 生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であること。 また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。	78～85 ページ	6
10. さまざまな保健活動や対策	ウ 様々な保健活動や対策 我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や対策などが行われていること。	86ページ	1
保健編 3単元 社会生活と健康 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境汚染を防ぐ取り組み	(3) 社会生活と健康 社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。 ア 環境と健康 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。 <内容の取扱い> 内容の(3)のアについては、廃棄物の処理と健康についても触れるものとする。	88～95 ページ	6
4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全を守る活動	イ 環境と食品の保健 環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること。 <内容の取り扱い> 内容の(1)のイ及び(3)のイについては、食育の観点を踏まえつつ、健康的な生活習慣の形成に結び付くよう配慮するものとする。	96～101 ページ	4
6. 働くことと健康 7. 働く人の健康づくり	ウ 労働と健康 労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があること。	102～105 ページ	3

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
体育編 1単元 運動・スポーツの文化的特徴 1.人間にとって「動く」とは何か 2.スポーツの始まりと変遷	(1) スポーツの歴史，文化的特性や現代のスポーツの特徴について理解できるようにする。 ア スポーツは，人類の歴史とともに始まり，その理念が時代に応じて変容してきていること。また，我が国から世界に普及し，発展しているスポーツがあること。	112～117 ページ	2
3.スポーツ文化の楽しみ方	イ スポーツの技術や戦術，ルールは，用具の改良やメディアの発達に伴い変わり続けていること。	118～119 ページ	1
4.オリンピックと国際理解	ウ 現代のスポーツは，国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており，その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること。また，ドーピングは，フェアプレイの精神に反するなど，能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。	120～123 ページ	1
5.スポーツと経済	エ 現代のスポーツは，経済的な波及効果があり，スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。	124～125 ページ	1
6.ドーピングとスポーツ倫理	ウ 現代のスポーツは，国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており，その代表的なものにオリンピックムーブメントがあること。また，ドーピングは，フェアプレイの精神に反するなど，能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。	126～128 ページ	1
体育編 2単元 運動・スポーツの学び方 1.スポーツの技術と技能	(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。 ア 運動やスポーツの技術は，学習を通して技能として発揮されるようになること。また，技術の種類に応じた学習の仕方があること。	130～133 ページ	2
2.技能の上達過程と練習	イ 運動やスポーツの技能の上達過程にはいくつかの段階があり，その学習の段階に応じた練習方法や運動観察の方法，課題の設定方法などがあること。	134～135 ページ	1
3.技能と体力 4.体カトレーニング	ウ 運動やスポーツの技能と体力は，相互に関連していること。また，期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること。	136～141 ページ	2
5.運動・スポーツにおける安全の確保	エ 運動やスポーツを行う際は，気象条件の変化など様々な危険を予見し，回避することが求められること。	142～144 ページ	1
体育編 3単元 豊かなスポーツライフの設計 1.生涯スポーツの見方・考え方	(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。 ア スポーツは，各ライフステージにおける身体的，心理的，社会的特徴に応じた楽しみ方があること。また，その楽しみ方は，個人のスポーツに対する欲求などによっても変化すること。	146～147 ページ	2
2.ライフスタイルにおうじたスポーツ	イ 生涯にわたってスポーツを継続するためには，自己に適した運動機会をもつこと，施設などを活用して活動の場をもつこと，ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方を見付けることなどが必要であること。	148～151 ページ	2
3.日本のスポーツ振興	ウ スポーツの振興は，様々な施策や組織，人々の支援や参画によって支えられていること。	152～153 ページ	1
4.スポーツと環境	エ スポーツを行う際は，スポーツが環境にもたらす影響を考慮し，持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること。	154～155 ページ	1
		計	88